

「会員短信 31」

「笑いで災禍を乗り越えて」 土屋泰山

一昨年、還暦を迎えた折、松山で愛媛CATVの「八木健の俳句遊遊」に出演する機会をいただきました。松山は亡母の故郷で、幼い頃から夏休みになると鉄道で松山を訪ねていました。

其上に城見ゆるなり夏木立 子規

予讃線の車窓から松山城の見た瞬間の感動は、今も忘れられません。その松山で、NHKの「俳句王国」の司会をなさっていた八木会長が同じように司会をされる番組で、自分の俳句を披露させていただきました。

名月をスーパームーンと呼ぶなんて 泰山

出演者のお一人が一点入れてくださいました。「『なんて』と言うのは俳句の表現ではあまり聞かない」との評もいただき、とても勉強になりました。

昨年も出演を楽しみにしていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により実現されませんでした。今年も私の住む千葉県では、新年早々、一月八日に緊急事態宣言が発令されてしまいました。

私は、高校の国語講師であり、朗読の表現者でもあります。人との接触を減らすことは難しいことです。「禍を笑い飛ばして去年今年」。今年の年賀状にはこう書きました。笑いは免疫力を上げると言います。日々、新たな発見をし、滑稽俳句を作りながら、元気に過ごしたいです。

藤房のはらはら三密なんのその

蟻の顔よく観てみれば日本人

かなと言ふ人を呼んでる蝸は